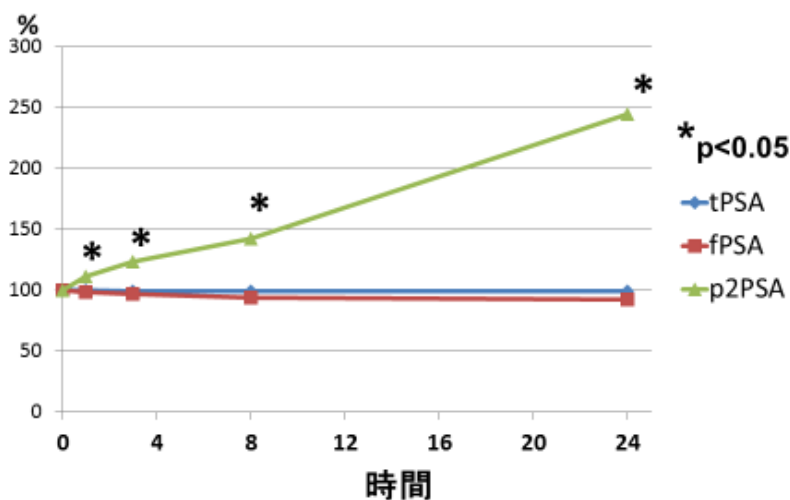


[-2]pro-PSA の採血検体での測定安定性に関する検討

【目的】 Total PSA に比較してより高い前立腺癌特異性を示すことが注目されている [-2]pro-PSA の採血検体における測定安定性を検討する。【方法】 22 名の日本人男性（年齢中央値 64 才）から同意のもとに採血を実施し、検体を速やかに血清または全血の 2 群にわけ、各々室温または 4℃で 1, 3, 8, 24 時間保存後、分離血清を -70℃凍結とした。その後 [-2]pro-PSA、freePSA, total PSA を Access Immunoassay Analyzer を用いて同時測定した。測定結果の時間経過を基準値に対する % recovery の推移により評価し、また各測定値に基づいて算出した Prostate Health Index (phi) の検討も併せて行った。測定安定性の指標は基準値±10%以内と定義した。【結果】 [-2]pro-PSA は血清中においては 4℃、室温いずれにおいても採血後 24 時間まで安定した値を示した。一方、全血中においては室温で採血 1 時間後で既に +10% を超える測定値上昇を認め、その後時間経過とともに顕著に上昇が持続した。phi についても同様の傾向が認められた。【結論】 [-2]pro-PSA は採血検体中において比較的不安定であり、特に全血室温保存での測定値上昇が顕著であった。測定に際しては採血後速やかに血清分離保存または全血では 4℃保存 3 時間以内とすることが望ましく、測定値解釈に関しても検体保存状況の確認が重要であると考えられた。

全血室温条件下における各PSA %recovery



参考論文：

Igawa T, Takehara K, Onita T, Ito K, Sakai H: Stability of [-2]pro-PSA in whole-blood and serum: analysis for optimal measurement conditions. J Clin Lab Anal. 28: 315-319, 2014.